



平成 21 年 12 月 14 日

各 位

株 式 会 社 ゼ ク ス
代 表 取 締 役 社 長 平 山 啓 行
(コード番号：8913 東証第一部)
問 合 せ 先 常 務 取 締 役 増 田 達 哉
電 話 番 号 03-6890-1020(代表)

株式会社TESホールディングスとの再生医療に関する 戦略的業務提携基本合意書の締結に関するお知らせ

株式会社ゼクス（以下、「当社」といいます。）と株式会社 TES ホールディングス（以下、「同社」又は「TES ホールディングス」といいます。）は、平成 21 年 12 月 14 日開催の取締役会において、業務提携を行うことを決議し、基本合意書の締結をいたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 業務提携の内容と目的

TES ホールディングスは、東京大学医科学研究所分子療法分野と「骨再生」に関する共同研究を行い、その成果としての国際特許を東京大学と共同出願（平成 21 年 12 月 3 日出願済み）している実績を有しております。また、他大学等の研究機関との共同研究の実績を有し、「皮膚再生医療」においては実用化に成功し事業を展開している先端企業です。

今回の戦略的業務提携は、優れた再生医療技術の実用化を、広く・早く・安全に全世界に拡げる事を目的とし、①「再生医療」知的財産権のライセンス販売事業 ②細胞培養の技術研修・培養工程管理サービス等を行う細胞培養支援事業 ③当社グループの運営するチャーミング・シリーズ内のクリニック及び提携クリニックを拠点としての「再生医療」による治療サービスの提供 の3事業を実現するべく、2社がノウハウを共有して、ビジネスモデルを構築していく為の基本合意となります。

当社としましては、チャーミング・シリーズに入居頂いている皆様に対する更なる顧客満足の追求を第一義として、「再生医療」サービスの提供を早期に実現するべく、「再生医療」技術の開発、又「再生医療」技術を顧客へ提供することを目的としています。

また、当社グループの新規事業である、東アジア地域での高齢者関連事業展開における相乗効果も視野に入れ、本提携に至りました。

2. 業務提携の理由

当社は、平成 21 年 8 月 18 日発表の新中期経営計画（ゼクスリバイバルプラン 2012）において、お知らせしましたように医療関連事業の構築を推進してまいりました。

その中で、新規推進事業としての医療関連事業においては、チャージング・シリーズ入居者の生活や医療に関わるご意見の蓄積（食・美・歩くなどに関する欲求：別添資料①）が、当社グループの貴重な財産であるという認識の下、アンチエイジングや QOL(クオリティオブライフ：生活の質)の向上に貢献するサービスを、新たなビジネスとして積極的に推進していく事を計画しております。

このような状況下において当社は、アンチエイジングや QOL の向上に大きく貢献する分野であり、最先端医療として非常に高い注目を集めている「再生医療」分野において、各大学等の研究機関との共同研究から知的財産権の獲得までに多大な実績を有する TES ホールディングスと、戦略的業務提携に関する基本合意契約を締結しました。

3. 構築するビジネスモデル

(1) ライセンス（特許発明及びノウハウの実施許諾権）販売事業

・「骨」「肌」の再生医療ライセンス販売

最初の事業展開として、「歯槽骨」の再生医療に関するライセンス販売を計画しています。この技術を提供する最終顧客は、インプラントを希望しているが歯槽骨が薄くなってしまい施術を受けられない患者となります。その市場予測は 2015 年において 198,000 件が推定されており、（歯槽骨再生医療マーケットについて：別添資料②）現存する代替技術を考慮しても、非常に優位性のある事業展開をすることが可能と考えております。なお、歯槽骨再生のライセンスを日本国内で医療機関に対し販売する事で、中期的に累計総額 50 億円以上の売上高が想定できる事業と考えます。

・ライセンス販売の海外展開

対象となる知的財産権のライセンス販売を、海外（主に東アジア：中国等）に展開する計画であり、日本以上に大きいマーケットサイズを想定しております。

(2) 運営体制支援サービス事業

購入したライセンスを使用して再生医療を行う際に必要な、各種運営サポートを医療機関に対して行う業務になります。具体的には、医療法人に対する技術講習業務、培養室設置支援業務、培養の工程管理から培養技術アドバイス、更には付随する経営支援業務を行います。その結果、患者人数に比例したロイヤリティ報酬を得ることで、中期的には毎年 20～30 億円程度の粗利益が想定できる事業と考えます。

(3) 提携医療機関運営支援事業

現在提携医療機関として関係の強い各チャージング・シリーズ併設クリニックにおいて、再生医療の実現を支援し、医療機関側からの視点で、各種技術のバージョンアップを図り、最終的にライセンス販売業務にフィードバックしていく計画であります。

以上の様な事業展開が、日本国内のみならず中国を始めとする東アジアから全世界に拡大する事で、今回の提携が当社グループにとって多大な利益をもたらすものと見込んでおります。

4. 株式会社 TES ホールディングスの概要

(1)名 称	株式会社 TES ホールディングス
(2)所 在 地	東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学アントレプレナープラザ 6 F
(3)代表者の役職・氏名	林 明男
(4)事 業 内 容	再生医療に関する医療技術の研究開発 医療機関からの研究委託業務
(5)資 本 金	75 百万円
(6)設 立 年 月 日	平成 14 年 4 月 4 日
(7)URL	http://www.tes-h.co.jp/

平成 21 年 12 月 14 日現在

5. 日程

(1)業務提携契約締結	平成 21 年 12 月 14 日
(2)業 務 開 始 日	平成 21 年 12 月 14 日

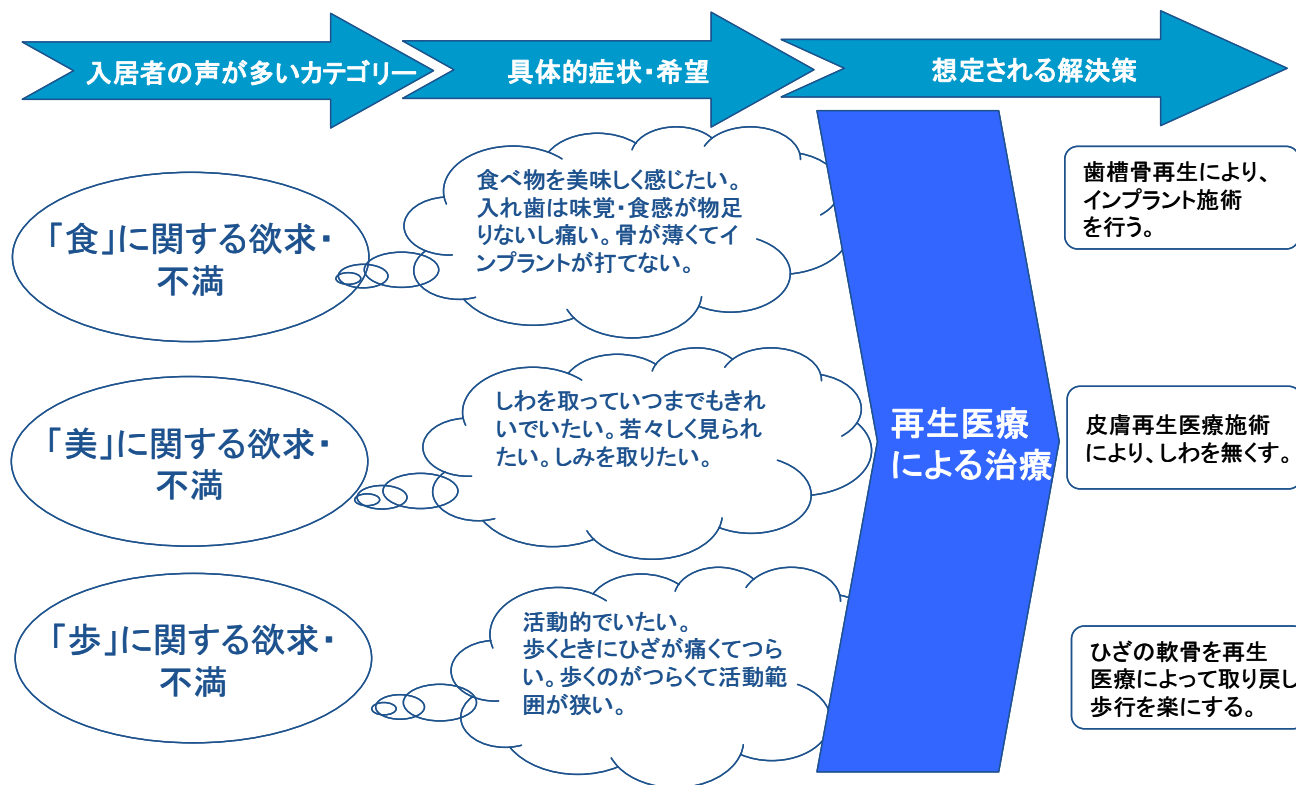
6. 今後の見通し

今後も本プロジェクトの進捗に応じて適時情報を開示していくとともに、本件が通期業績見通しに重要な影響を与えることとなった場合には、速やかにお知らせいたします。

以 上

別添資料① 「食・美・歩くなどに関する欲求」

当社グループ運営のシニア住宅入居者の方々の医療・日常生活に関わるご要望を、再生医療が解決できる余地は非常に大きいと考えられる。



別添資料② 「歯槽骨再生医療マーケットについて」

再生医療の市場予測（歯槽骨の再生と歯周病治療）

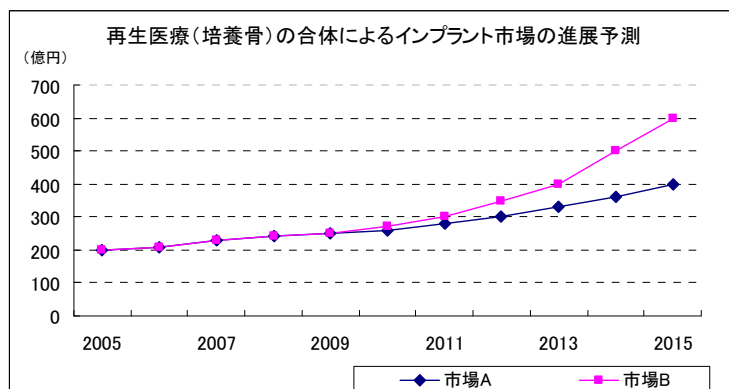
2010年 103,000 症例 29,300 百万円

2015年 198,000 症例 61,300 百万円

インプラントの市場予測

2015年 50,000 百万円

- * インプラントを希望する患者の内、顎骨で骨量が不足しているケースは10～20%。
- * 今後インプラントの適応が拡大し、2倍の患者数に達する時代には、顎骨の不足と診断される患者数は50%に達すると推定している。
- * つまり、歯槽骨再生医療のニーズは大幅に拡大されるものと考えられる。



市場 A: 現在予測されるインプラント市場

市場 B: 再生医療(培養骨)の合体によるインプラント市場

(出典：独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構作成/

平成19年度 研究開発技術シーズ育成調査事業 「歯科インプラントを可能にするためのMSCによる歯槽骨増生法に関する調査」より)